

まち結ぶ市民劇

登米・夢フェスタ水の里10作目

住民有志が発案
伊豆沼に冬鳥が舞い、い
一(上)

登米市民が年に一度、郷土の歴史を見つめ直すステージがある。住民による手づくり創作劇「夢フェスタ」。

水の里」。登米祝祭劇場(登米市迫町)で繰り広げられる公演は、十六、十七日の「軽便」は時空を超えて「仙北鉄道物語」で十回目となる。旧九町ごとに伝わる民話や風土に題材を求める、前回までに一巡。夢

フェスタは何を残し、どう引き継がれていくのか。さまざま思いが集まつた新たな舞台は、まもなく幕を開ける。

かけは九七年にさかのぼる。
九年開館の劇場が五周年を迎えるのを前に、登米郡の住民有志でつくる「ピ

ツグイイベント企画委員会

内で「地域の個性を生かし木は風にゆれて 佐沼城物語」。戦国時代の佐沼(登米市迫町)を舞台に、葛西、

初の企画は「さいかちの委員会はこの意見を基に、大崎、伊達の諸大名の霸権争いに翻弄(ほんろう)されながらも、将来を信じた農民たちの誇り高い生きざ

を九九年三月六、七日の舞台。計千五百九十二人の観客を集め、参加者の心は自信と達成感にあふれた。「お

木は風にゆれて 佐沼城物語」。戦国時代の佐沼(登米市迫町)を舞台に、葛西、

初の企画は「さいかちの

委員会はこの意見を基に、大崎、伊達の諸大名の霸権争いに翻弄(ほんろう)されながらも、将来を信じた農民たちの誇り高い生きざ

を九九年三月六、七日の舞台。計千五百九十二人の観客を集め、参加者の心は自信と達成感にあふれた。「お

木は風にゆれて 佐沼城物語」。戦国時代の佐沼(登米市迫町)を舞台に、葛西、

初の企画は「さいかちの委員会はこの意見を基に、大崎、伊達の諸大名の霸権争いに翻弄(ほんろう)されながらも、将来を信じた農民たちの誇り高い生きざ

を九九年三月六、七日の舞台。計千五百九十二人の観客を集め、参加者の心は自信と達成感にあふれた。「お

木は風にゆれて 佐沼城物語」。戦国時代の佐沼(登米市迫町)を舞台に、葛西、

存続への思い危機克服

一 体感

を見つけた。みんなで一つのものを作り上げる過程は貴重な経験だった」と千葉さんは感慨深げに語る。

舞台の町消える

を見つけた。みんなで一つのものを作り上げる過程は貴重な経験だった」と千葉さんは感慨深げに語る。

舞台の町消える

てつく二月前後。毎年この

時期、登米祝祭劇場の熱気

は最高潮に達する。夢フェ

スタ水の里には、参加者や

観客として二千人近い市民

が集つ。

一九九九年に始まつた夢フェスタ。その誕生のきっ

二郎さん(七五)登米市登米

二郎さん(七五)登米市登米